

科目名称：	障害児保育実習Ⅱ	
担当者名：	中村 明成、小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	実習	1
授業の目的・テーマ		
前期の「障害児保育実習Ⅰ」を踏まえて、実際に様々な保育現場（保育園・こども園・幼稚園・障害者支援施設）を訪問（インターンシップ）し、「現場参加」を体験する。二人でペアを組み、対象となる「子ども」を中心に、保育の現場で、保育者が実際にどうかかわっているか、特にコミュニケーションに焦点を当てて、自らもかかわってみる。その記録をまとめ、指導していただく保育者とのミーティング、カンファレンスも実施する。そこから、かかわることの意味を考えていく。		
授業の達成目標・到達目標		
子どもの行動の意味を、実際のかかわりからより深く考える。記録をまとめ、学内カンファレンスで、よりかかわりを見つめ直す。また他のインターンシップのカンファレンスにも参加することによって、より客観的に自分のかかわりを振り返ることができる。前期の「障害児保育実習Ⅰ」を踏まえて、記録のとり方、考察を深化させ、成果発表会に向けて、内容をまとめる。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	成果発表会プレゼンテーション	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			50	50	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（中村）障害者支援施設支援員社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》（小西）保育士	《経験年数2》 42年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
インターンシップ記録	自分たちのかかわりを、ふりかえり、関与者と記録者が話し合いながら記録にまとめられる	自分たちのかかわりをふりかえり、記録にまとめられる	自分たちのかかわりから、記録することができ	記録としてまとめることが不十分である
インターンシップ	現場参加の目的を十分意識し、子どもと積極的にかかわり、指導者への質問ができる	現場参加の目的を意識し、子どもと積極的にかかわれる	現場参加で子どもと積極的にかかわることができる	現場参加での子どものかかわりが不十分である
成果発表会プレゼンテーション	記録をまとめ、簡潔に発表要旨をプレゼンできる	記録をまとめプレゼンできる	記録のまとめが不十分で、プレゼンがまとまらない	記録がまとめられず、プレゼンまで到達しない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーションと学習の進め方	前期の現場参加の内容を確認する	40分
第2回 前期現場参加の記録のまとめ後期参加に向けて	前期の記録をまとめておく	30分
第3回 インターンシップ(後期現場参加)	インターンシップの記録をまとめておく	30分
第4回 インターンシップ(後期現場参加)	インターンシップの記録をまとめて提出できるようにしておく	60分
第5回 インターンシップ(後期現場参加)	インターンシップの記録をまとめておく	60分
第6回 インターンシップ(後期現場参加)	インターンシップの記録をまとめて提出できるようにしておく	60分
第7回 インターンシップ(後期現場参加)	インターンシップの記録をまとめて提出できるようにしておく	60分
第8回 インターンシップ(後期現場参加)とカンファレンス	現場参加先の保育者とのカンファレンスをまとめる	60分
第9回 インターンシップ(後期現場参加)とカンファレンス	現場参加先の保育者とのカンファレンスをまとめる	60分
第10回 インターンシップ(後期現場参加)とカンファレンス	学内でのカンファレンスを整理しておく	60分
第11回 インターンシップ(後期現場参加)とカンファレンス	学内でのカンファレンスを整理しまとめておく	60分
第12回 インターンシップ(後期現場参加)	成果発表会に向けて、現場参加先の保育者に助言を受け、記録を整理しておく	60分
第13回 インターンシップ(後期現場参加)	成果発表会に向けて、現場参加先の保育者に助言を受け、記録を整理しまとめておく	60分
第14回 インターンシップ(後期現場参加)	成果発表会の発表に向けて、内容をまとめる	90分
第15回 成果発表会(プレゼンテーション)	プレゼンテーションの準備をしておく	90分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、現場参加の記録を、協働してまとめる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
提出課題50% (主にインターンシップでのかかわりを記録にする。その際、指導する保育者とミーティングをし、記録を修正し、成果発表会のための提出課題)、成果発表会プレゼンテーション50%

課題に対するフィードバック

記録を見直し、学内カンファレンスで、話し合うなかで、助言・修正をおこなう。成果発表会では、外部助言者からも助言いただき、担当教員が講評する。

教科書・参考書

適宜、資料を配布する。